

主体的にかかわり合い、学びを深める国語指導の工夫

～ 一人一人が考える授業を求めて ～

第5学年 国語「詩を味わおう」（2学期）の実践

五泉市立村松小学校 教諭 澁谷かおる

1 はじめに

国語の教科書教材で「詩」の単元指導配当時間は、どの学年でも1～2時間と短く、物語文や説明文に比べて、読みの観点の指導が不足している。本学級でも、授業前にアンケートをした結果、詩の表現技法が分からない、詩を読むことで何ができるようになっていけばよいのかが分からない、という子の割合が高いという実態が見られた。

本校では、本年度の研究主題「主体的にかかわり合い、学びを深める子ども」の育成に向けて、授業改善に取り組んでいる。様々な情報から必要な情報を取捨選択し、自分の考えの根拠を明らかにしながら、友達とかかわり課題を解決する、という学習スタイルを確立してきた。

本単元では、詩に込められたテーマを、優れた叙述や表現技法などの情報を根拠として友達とかかわり、自分の考えを深める授業を実践した。

2 指導のポイント

○課題の吟味

- ・詩と出会ったら、様々な表現技法や優れた叙述を見つけ、それらを用いることで作者が表現したかったテーマを感じ取り、その思いが伝わるような音読を工夫するような力を付けよう、という最終目標を明確にする。そして、複数の詩で学び方の確認をしてから「からたちの花」を読んでいくという単元の学習過程を「詩の名探偵になろう」と名付け、詩の秘密を探っていきたいという意欲を高めた。

○かかわらせ方

- ・解決の見通しをもたせるかかわり合い（ペアで）
- ・考えの見直しや付け足しを促すかかわり合い（グループで）
- ・考えを確かにするかかわり合い（全体で）

○情報の選択

- ・必要な情報を選択する場面
- ・多くの情報から自己の考えを決定する場面

○振り返り

- ・自己評価による主体的な学習の促進（テーマの決定・自分の音読の工夫）

3 指導の実際

(1) 本時のねらい

「からたちの花」の表現の工夫に気付き、その工夫や優れた叙述を根拠としながら、作品のテーマを考えることができる。

(2) 本時の展開

① 表現の工夫を考える。

○本時の前に、複数の詩で学んできた技法を確認したワークシート集を参考にしながら、自分で表現技法を見付け、詩に書き込んだ。



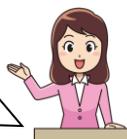
○自分が見付けた表現技法をペアで紹介し合ったり、疑問に思ったことや考えたことを出し合ったりした。



- ・「6連」「繰り返し」「比喻」「七五調」「呼びかけ」があるよ。
- ・4連に「からたちも」とあるから、からたち以外のことを言いたいのかな。
- ・5連の「みんなみんな」って誰だろう。

○全体で表現技法を確認し、疑問に思ったことを話し合う。

「からたちも」と書いてあるのはからたち以外の何が実ると言いたかったのでしょうか。



カキとかクリとか・・・金のたまって、人間が努力した成果かな？



「みんなみんな」とは、誰のことでしょう。



友達がなぐさめてくれている。家族のことじゃないかなと思ったよ。



② 詩のテーマを考え、紹介し合う。

○自分でテーマを考えて、短冊に書き、それを見せながら、自分の考えの根拠を伝える。



テーマは「努力しようということ。そうすれば成功する。」だと思います。金のたまというのは、金メダルみたいで、努力したことで得られるものと思ったからです。

「努力は実るもので、それは周りの人のやさしさのおかげ。」がテーマだと思います。みんなみんなやさしかったおかげだということに、気付いて欲しいということじゃないかなと考えました。

「からたちもがんばっている。」だと思っていただけ、この考えの方がいいと思ったよ。

○ホワイトボードに、グループでの話し合いの様子が視覚的に分かるようにまとめる。

・意見交流では「つなぐ」「比べる」「受けとめる」をポイントにすることで、班として一つの考えにまとめるのが目的ではなく、自分の考えの確認や修正のための交流であることを意識させた。

○各グループの話し合いの内容を発表する。

- ・からたちのように人もいろいろな人生がある。
- ・人間は、成長し続ける。
- ・努力すると励まし見守ってくれる人がいる。それに気付くことが大切だ。
- ・いつでも一緒にいてくれる人がいる。
- ・1年中努力するとそれが実ることに気付く。

○発表を聞いて感じたことを話す。

A班の「励まし見守る」という言葉がいいなと思いました。私も、その言葉をテーマの中に使ってみたいです。

③ 学んだことを振り返る。

○友達の考えと比較しながら、もう一度詩のテーマを考えて自分のノートに書く。

ぼくは「努力は必ず実るもので、それは周りの人のおかげだ」というテーマだったけど、そこに「ということに気付くことが大切」と書き足しました。それは、作者が「～よ」と呼びかけていることから、読む人に気付いて欲しいと思っている、というBさんの意見に納得したからです。

4 おわりに

この後の、音読活動では、5連を強調する、やさしく呼びかける、といった、その子なりの工夫がたくさん見られた。

また、3学期の「詩の楽しみ方を見つけよう」の授業では、子どもたちから「自分の好きな詩を選んで、表現技法やテーマを考え、それを友達に紹介したい」という声が上がった。詩を味わう方法を学んだことで、自ら学習課題を決め、進んで詩を読もうとする態度が見られるようになった。

教材を通して何を学び、どのような力を付けるかを子ども自身に自覚させることが大切である。